

白米城から松阪市街・伊勢湾を望む(視界360°の絶景が楽しめます)

あざか住民自治協議会 〈2020年12月改定〉 松阪市小阿坂町3315 Tel 0598-58-2645

阿坂城 _ ぁざかじょう -

国指定史跡:昭和57年(1982年)

指定築城時期:南北朝·室町時代

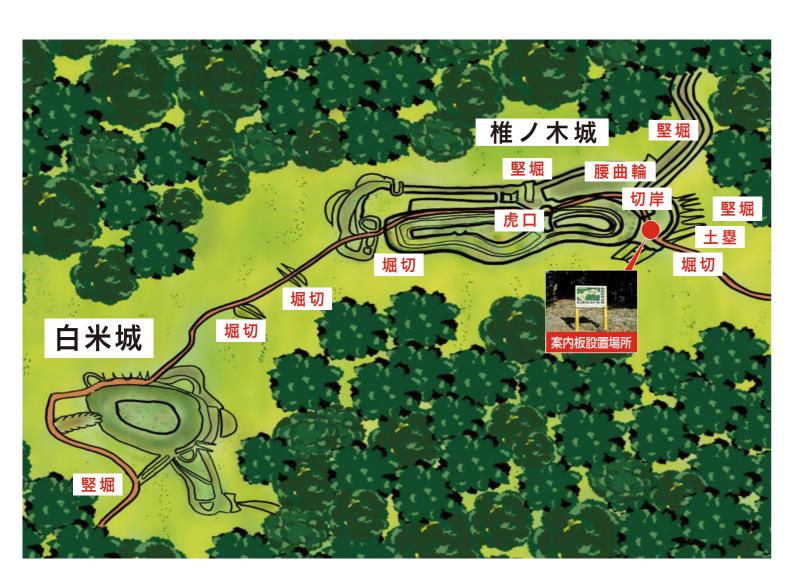
阿坂城は、東西約150m、南北約300mの城域をもち、北郭 (椎ノ木城)及び、南郭(白米城)と言う、それぞれ異なった構造 を持つ郭により構成される。

北畠氏の本拠地である津市美杉町多気と、伊勢平野を結ぶ主要ルートの重要拠点に築かれた山城で、数多くの文献にも登場する、三重県の中世城館を代表する城で、その歴史は古く、文和元年(1352年)の南北朝の争乱を伝える文献に初めて登場する。

江戸時代初めに成立した「南方紀伝」では、応永22年(1415年)に北畠満雅が幕府軍を迎え撃った際、水を絶たれた北畠軍が、馬の背に白米を流して幕府軍を欺き、撃退したことから、南郭は白米城と呼ばれている。

この戦いは、北朝と南朝が交互に天皇に即位するという約束が破られ、それを不服とする南朝側に味方した北畠満雅に対し、北朝側を支持する幕府軍が攻め込んで激しい戦いとなったが、両軍譲らず和睦に至ったと伝えられている。

その後、永禄12年(1569年)、南伊勢に侵攻した織田信長の 軍勢による攻撃により、落城し廃城となった。





浄眼寺 - じょうげんじ -



山号:正法寺 宗派:曹洞宗 本尊:釈迦如来

文明10年(1478年)、伊勢国司 北畠政勝(後に無外逸方)が7 堂伽藍を建て、高名な僧 大空玄虎を招き、正法山 浄眼寺を開基し、北畠氏の菩提寺とした。のち永禄12年(1569年)木下藤吉郎率いる織田信長軍との戦により広壮な殿堂を焼失。現在の本堂、禅堂総門は宝暦年間(1751~1764年)に再興された。寺には北畠氏の発給文書をはじめ貴重な宝物があり、本堂横には同寺住職が往来のとき用いたという駕籠が、今も吊るされてあり、昔六万石の格式があったというその名残を留めている。浄眼寺所蔵の北畠政勝(無外逸方)寿像は平成21年三重県文化財に指定された。

高城跡 - たかじょうあと -



国指定史跡:昭和57年4月7日(1982年)

高城は、「南方紀伝」に記された阿坂城の出城に相当し、阿坂城から北東方向に派生する標高70mの丘陵部に立地する。 60m四方の主郭を中心に南東に削平地、西に切り込み平地、北東に二重の堀切を配置する。主郭を囲む土塁は外側の比高約10mに達し、西辺部分は幅15mと広い。また、主郭東辺、西辺中央には枡形が形成されるなど、戦国期の特徴を持っている。北畠家の重鎮で阿坂城城主大宮入道含忍斎の居城と伝えられている。永禄12年(1569年)木下藤吉郎率いる織田信長軍との戦いで阿坂城、浄眼寺と共に焼失した。

この時の戦いで、大宮入道の嫡男大之永景連の放った強弓により木下藤吉郎が戦場にて唯一負傷したとの言い伝えがある。 戦は、大宮入道の家臣が激しい攻めに恐れをなし、保管されていた火薬などに水をかけたため戦意をそがれ落城した。

枳城跡 - からたちじょうあと・



国指定史跡:昭和57年4月7日(1982年) 阿坂城の出城。阿坂城の南東の標高180mの山頂に立地し、 東西に長い台状地と堀切からなるシンプルな山城である。

座禅石 - ボザんいし-



阿坂城の麓、地獄谷にある巨石。

昔、地獄谷には妖怪が住み、猛火がところどころ燃え上がり熱 湯が吹き上がり、村人は恐れて近づくことができなかった。

文明4年(1472年)この話を聞いた僧 大空玄虎が、皇大神宮に参 詣し、夜を徹し禅定したら神のお告げがあった。直ちに地獄谷に隠 棲し、7日にわたりこの石の上で座禅の日々を重ね、威を振って喝 破すると、山谷は静まり、妖怪は姿を消したとの言い伝えがある。 この後、大空玄虎は、北畠政勝に招かれ浄眼寺を開山した。

阿射加神社(大阿坂) - ぁざかし



垂仁天皇の18年4月、勅により大若子命をして阿坂山の嶺に 阿坂の神を祀った。斉衡2年(855年)に従4位下を叙せられ、 清和天皇の貞観元年(859年)に従4位上を授けられ、貞観8年 に従3位に叙せられた。

伊勢国司 北畠満雅が阿坂山に城(阿坂城)を築いた時、社地を山上より現在の地に移したとの言い伝えがある。

祭神:猿田彦大神、底度久御魂、都夫多都御魂、阿和佐久御魂

ほりこし観音 - ほりこしかんのん



応永元年22年(1415年)北畠満雅と足利氏との合戦により戦死した者の供養の為、阿坂城家臣 沼田氏により建立された観世音菩薩。

鳥岡観音 - とりおかかんのん・



中央に如意輪観音、向かって右に11面観音、左に魚籃観音を配す。明治地誌によると、大宮入道含忍斉の遺体を埋た所で、 島岡墓と称すとある。

六本松(大日堂) - ろっぽんまっ -



1株の松に6本の枝があり、それが皆同じ長さに見えることから6本松と言われていた。古人の墓印に植えた松で下に古い石塔がある。この石塔上半分ほど欠損し、「浄心」と2字残っている。古く、足痛のもの杖を奉納したとの言い伝えがある。阿坂城で戦死した者の墓との言い伝えもある。

阿射加神社社叢(小阿坂) - あざかじんじゃしゃそう



市指定天然記念物:昭和63年4月26日(1988年)

水田等の耕作地に囲まれた阿坂山山麓丘陵の下部に広がる神社林の内1.45haが社叢として天然記念物に指定されている。スダジイ、アマモガシ、ミミズバイ、サカキ、タブノキなどの常緑樹からなる照葉樹林で、樹高15m前後、胸高径1mほどのスダジイが林冠を覆い、一部にヒノキの人工樹が混じるものの、ほぼ自然林に近い状態で保存されている。このような樹林は伊勢平野丘陵部の本来の植物的自然をうかがい知る貴重な植生である。

美濃田大仏 - みのだだいぶつ -



市指定有形文化財:昭和31年11月13日(1956年)

大仏殿に安置された上品上生の定印を結ぶ、地方には珍しい 大仏で、元文2年(1737年)頃の作と考えられる。像の左膝部 には「紀州粉河住 峰屋平右衛門正勝」と製作者の名が陽刻さ れている。この大仏は、隣接地の敏太神社の八幡宮の本地仏 として真楽寺三世静室素と地元の中川清左衛門とが協力して 造立した。大仏殿の屋根の扁額に書かれている「安養(あん にょう)殿(でん)」とは、極楽浄土の別名で、安らかに心と体を 養って、速やかに仏と同じ知徳を得るという意味である。正面 四間、側面三間の二層造り、東大寺の大仏殿を模していると言 われる。蓮華の台座に安置されている阿弥陀如来は、高さ三 メートルあり、地方でこれだけの大きさの金銅仏が祀られてい るのは、珍しいと言われる。

敏太神社 - バったじんじゃ -



里人が樹の枝に光る木像(八幡台菩薩及び神功皇后)を得て、 社殿を建てこれを祀ったのが始まり。江戸時代には「敏太八幡 宮」と通称された。祭神:牛頭天皇 社格:郷社

向川古墳 _ おかいわまである。



国指定史跡:昭和50年6月26日(1975年)

築造時期は4世紀後半(古墳時代前期)、規模は全長71.4mの前方後方憤。(前方部長31.2m、同幅26.7m、後方部径40.2m)葺石(古墳の表面に敷き詰められた石)と埴輪(古墳用に作られた焼き物)が使われた古墳である。